

ココラボJOラジオ 2026年3月



サステナビリティと企業経営

ゲスト:内田裕子氏(経済ジャーナリスト)



[第2回] 統合思考

— サステナビリティと経営をつなぐ

統合思考とは何か？

—財務偏重でバラバラな経営を、一本のストーリーに—

統合思考とは、財務・人材・技術・社会・自然など、

企業が使う資本の関係性を理解し、意思決定に活かす考え方。

「企業はお金だけで価値をつくっているわけではない」という発想が出发点。

6つの資本フレームワーク —企業価値の“源泉”を見える化する—

統合思考では、企業価値を次の6資本で捉える。

- 財務資本
- 製造資本
- 知的資本
- 人的資本
- 社会関係資本
- 自然資本

これらは独立ではなく、相互に影響し合って価値を生む。

なぜ統合思考が必要なのか

—世界の企業価値評価は変わった—

気候リスク、人材、サプライチェーン、資源制約…。

財務情報だけでは、企業の強さは説明できない。

欧州・米国では、VUCA*の時代に「どう価値を生み続けるか」が経営の中心テーマになっている。

*VUCA : 変動性(Volatility)、不確実性(Uncertainty)、複雑性(Complexity)、曖昧性(Ambiguity)

中小企業こそ統合思考に向いている理由

—すでに“統合”して働いている—

中小企業は、顧客・社員・地域・経営者が近い距離にある。

つまり、6つの資本が日常的に結びついている。

統合思考は、中小企業の強みを「言語化・可視化」するためのツールである。

価値創造とは「つながりの再設計」

—新結合としての経営—

お金×人、技術×社会、企業×地域。

つながり方を変えることで、新しい価値が生まれる。

統合思考は、経営を“部分最適”から“全体最適”へ導く視点である。

シュンペーターの「新結合」(＝イノベーション)に通じる考え方。